目には見えないけど、大切なこと

平成１８年８月２０日

原告　木村和穂

１．はじめに

私はこの度の訴訟の原告の一人である、木村和穂と申します。松原５丁目在住です。現在、東京大学大学院修士課程に在籍し社会学を専攻しています。また下北沢の一番街商店街から少し入った所に事務所を間借りして、友人たちと『ミスアティコ』という下北沢の地域雑誌の編集・発行もしています。

２．下北沢との関わり

私は幼少期を渋谷区代々木で過ごし、その後、高校卒業まで千葉県の外房で暮らしました。幼少期には母に連れられ毎週のように下北沢に通っていました。当時、私の伯父が世田谷カトリック教会の神父をしており、クリスチャンであった母は私をつれ日曜日のミサによく通っていたためです。幼かった私にとってミサは退屈そのものでしたので、よくミサを抜け出し中庭に出てはトカゲを追いかけて遊んでいたのを覚えています。また教会の帰りに商店街でコロッケや鯛焼きを買ってもらうのが楽しみでした。

この世田谷教会は、戦後の焼け跡のなか信者たちが作り上げてきた歴史があります。中庭には万病を治すというフランスの「ルルドの奇跡の泉」を模した岩屋がありますが、これは学校のプールの改築でいらなくなったコンクリートの塊を使い、信者たちが文字通り手作りしたものです（写真資料１）。私の両親はこの教会で結婚し、私自身もこの教会で幼児洗礼をうけました。この教会が補助５４号線によって壊されてしまうかもしれないということを知ったのは今から２年ほど前でしたが、それはまさに寝耳に水でした。母に確認したところ同じく初耳であるとのことでした。

大学に進学した私は、キャンパスがあった神奈川県藤沢市に住みました。その頃、下北沢にはたまに遊びにくる程度でしたが、訪れるたびに街の中に何か新しい発見があり、歩いているだけでワクワクしました。この街でなら自分にも何かできるにちがいないという漠然とした期待感や、街全体に漂うアットホームな雰囲気に惹きつけられ、大学院進学をきっかけに下北沢に住むことに決めました。

下北沢に引っ越してからというもの、私はほぼ毎日、街に出るようになりました。大学の帰りに食事をしたり散歩をしたり本屋をのぞいたりということが日常になり、そのうちちょっとした「シモキタ通」になりました。友達が遊びにくるたびにお気に入りのお店に連れて行きます。下北沢は人に自慢したくなる街なのです。

そんなある日、再開発計画について書かれたチラシを下北沢の駅前で受け取りました。それを見たときの始めの私の印象は「えっ、嘘でしょ？まさか」というものでした。「嘘でしょ？」と信じられない気持ちのほうが強かったです。しかし後日よくよく調べてみるとそれは嘘ではありませんでした。そこから私と下北沢の関係の第二章が始まります。

３．下北沢と出会う雑誌をつくる

下北沢を守るために何かしたい。そう思った私は、まず下北沢のことをもっと知り、自分がこの街に対して感じている魅力を積極的に多くの人に伝えようと『ミスアティコ』という地域雑誌を友人たちと始めました。これは「下北沢と出会う雑誌」をテーマに、いわゆる街のオススメスポットの情報から、街の歴史を知っている方へのインタヴューまで、幅広い話題をとりあげる雑誌です。この雑誌は私にとって「パスポート」のようなもので、このおかげで実に多くの人に出会うことができました（写真資料２）。

広告を頂くためにお店を１軒１軒まわるうち、普通にお客としてお店にきているだけでは絶対に聞くことの出来ないような話もだいぶ聞きましたし、店主と意気投合して友達になるということもありました。そのなかで強く感じたのは、下北沢に

は友達の友達は友達といった具合につながってゆく、世代を超えたゆるやかな人のネットワークが存在するということです。コミュニティと呼んでしまうとやや固定的なイメージが強いですが、互いに気軽に話しかけやすい雰囲気、「山の手の下町」と呼ばれる気取らない雰囲気があるのです。実はこれはすごく貴重なことではないかと思います。

４．なぜ補助５４号線計画に反対するのか

そもそも下北沢に新たな大規模道路は必要ないという明白な理由から、私は補助54号線計画に反対です。多額の税金を投入してわざわざ下北沢の街を壊す必要がどこにあるのでしょうか。強引なやり方を押し通し、市民と行政の信頼関係をズタズタにしてまで作る必要がある道路だとは到底思えません。またこの計画によって、これまで『ミスアティコ』を支えてきてくれたお店やそこに集う人々は結果的に街から排除されてゆくことになります。これは都市計画的な意味はもちろん、経済的、文化的な意味においての破壊だと思います。本来必要なのは、長い年月をかけて作られてきたこの街のあり方を尊重し、よりよく活かす都市計画ではないでしょうか。

５．さいごに

いま全国各地の人たちが下北沢の運命を固唾を呑んで見守っています。それは下北沢の都市計画問題は、単に下北沢だけの問題ではなく、これからの街のあり方、ライフスタイルのあり方をどう考えてゆくのかという大きな価値選択の問題でもあるからだと思います。

裁判所の賢明なご判断に期待しています。

以上

１．教会の中庭にあるルルド。
クリスマスなどの教会行事はもちろん、
映画の撮影などでも使われているとても静かな場所。

２.『ミスアティコ』は、下北沢のカフェや雑貨屋さんなど
約１５０箇所に置かせていただいている。